

### Ⅲ-3-⑥発電方法別のメリットとデメリット

エネルギー資源には、すべての条件を満たす完璧なものはありませんので、いろいろな電源を組み合わせるなど、工夫が必要となります。

	火力 (石油、石炭、天然ガス)	原子力 (準国産エネルギー)	再エネ(太陽光、風力、地熱、バイオマス、水力)		
			再エネ(水力以外)	水力(小規模)	水力(大規模)
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>大量で安定的な電力供給ができる</li> <li><b>需要に応じて発電量を調整</b>できる</li> <li>需要地に近い場所での建設も可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大量で安定的な電力供給ができる</li> <li>燃料は<b>準国産で安定確保</b>でき、また、リサイクルも計画</li> <li>CO2を排出しない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資源は枯渇することなく、国内で確保できる</li> <li><b>CO2を排出しない</b></li> <li>小規模の設置がしやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資源は枯渇することなく、国内で確保できる</li> <li><b>CO2を排出しない</b></li> <li>1日の発電電力の変動が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>大量で安定的な電力供給</b>ができる</li> <li>資源は枯渇することなく、国内で確保できる</li> <li>CO2を排出しない</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO2を排出する</li> <li>燃料調達の量や価格が<b>海外情勢に左右</b>されやすい</li> <li>資源は枯渇する可能性がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模な<b>事故時の被害</b>が大きい</li> <li>放射性廃棄物の最終処分場が決まっていない</li> <li>大量の冷却水がある場所に限定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電力供給が<b>気候条件などに左右</b>されやすい(太陽光、風力)</li> <li>電力コストが高い</li> <li>立地が限定される(風力、地熱)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電力<b>コストが高い</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム建設が自然環境や生活環境を損なうことがある</li> <li>施設の建設費や維持費がかかる</li> <li><b>大規模立地の場所がなくなった</b></li> </ul>

出典：資源エネルギー庁資料等から作成

### 電源の種類ごとの特徴一覧